

審判員の基本動作

審判員が決められたゼスチュア、コール、ルールの適用を正しく実施して、試合の進行を円滑にするために試合の開始から終了までに必要かつ基本的な「宣告用語」「姿勢と構え」「ゼスチュア（動作）とコール（発声）」をまとめてみた。これはあくまでも基本であるから、これをもとに研修を積み重ね自己の安定したスタイルを確立し、正確な判断と明快なゼスチュアを身につけて、誰からも信頼される審判員となることが望ましい。

【付記】

小学生・中学生の大会あるいは、親睦を目的とした大会などで、理解の不十分なプレイヤーがいるため、競技が混乱したり遅延したりするときには、フェア、ストライク、ボールのカウントをコールしたり、フォアボール（四球）の指示をすることは差し支えない。また、選手の交代、攻撃側の監督の選択権、打ち合わせ等については適切な指導を行ってよい。

球審と塁審の段階指導の順序	
球審の段階指導の順序	塁審の段階指導の順序
on the rubber 両足の位置を決める。	set 構える。
get set 投手の動作に合わせて構える。	go 行く。
call the pitch 捕手のミットに球が入ったらストライク、 またはボールの宣告をする。	Stop 止まる。
Relax 緊張をとく。	Look 見る。
	Call コール。
	Look 見る。

*「アウト」と判定したのちは野手を、「セーフ」と判定したのちは走者を注視する。

審判員の服装および用具

審判員の服装

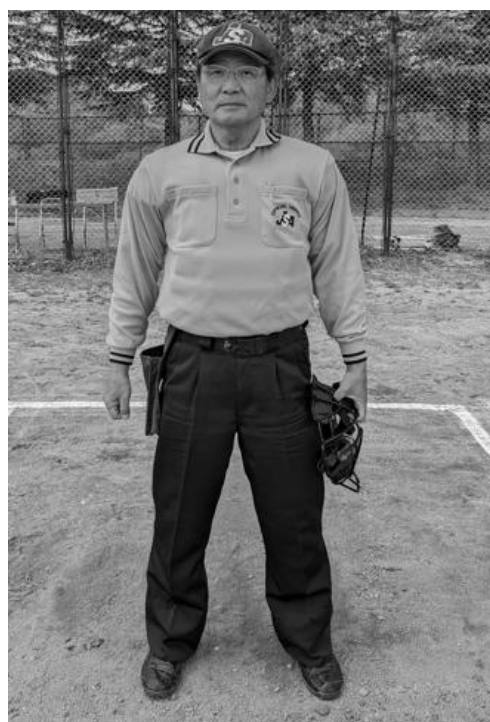
塁審の審判用帽はひさしの長い物を使用する。
目を保護するために審判員はサングラスを使用してもよい。
感染症の予防のために審判員はフェイスマスク等を使用してもよい。

用 具

インディケーター、バットゲージ、ハケ、ボールバック、プロテクター、レガーズ、コイン、スロートガード付きマスク、カップ

*プロテクター等の着用は事故防止のためである。

必ず着用すること。マスク、プロテクターなどの必需品は個人用として揃えたい。



審判員の基本動作

球審の構え

マスクの着用

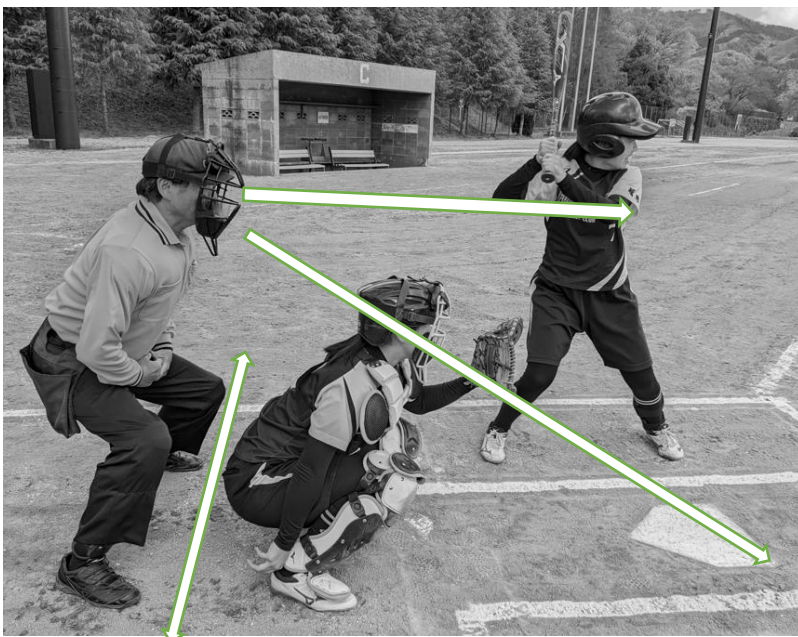


マスクは捕手席の外で原則打者の反対側の横で身につける。

球審の構え（基本の構え）



原則として本塁の中心よりインサイドに構え、両足は肩幅より広く開き、捕手に近づいて構える。（打者側の足はやや前方でもよい）
両肘を軽く締め、左手を前にして両手を組む。
投手の投球に合わせ、腰を落とし両膝を曲げ、肩の力を抜いて自然に構える。
両眼は、ストライクゾーンの上限でホームプレートのインサイドに外したところに置く。常にホームプレートと打者の両手・両足が見えるようにする。



目線は打者のストライクの上限に合わせ、ホームプレートの外角の角が見えるように合わせる。
両足は原則平行に構える（打者寄りの足がやや前方に構えることも可）

球審のストライク



捕手が捕球したのを確認（顔は動かさず目で追う）して、歯切れよく「ストライク」とコールしながら立ち上がる同時に、左手を身体前面のベルトの上に当て、肘に力を入れず右手の肘を偏りも上に上げハンマーポジションを作る。（この時、やや後方より前にハンマーをたたくようにする）「ストライク」のコールはベンチ・野手に聞こえる程度、きわどい見逃しの第3ストライクは大きい声で、メリハリのあるコールでよい。

球審のボール



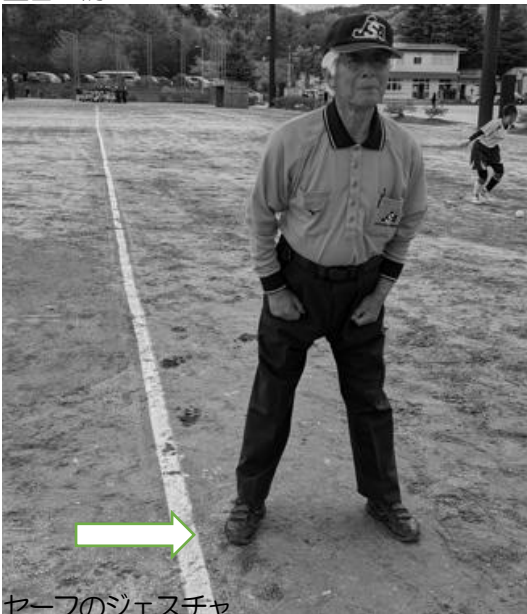
球審の基本の構えのまま、「ボール」は捕手・投手に聞こえるぐらいの大きさでよい。

ストライクのコールのような声の大小はない。（きわどいボールのコールはない）

球の方向に身体を動かさず、「ボール」とコールし捕球後すぐ立ち上がりず、しばらく投球を見た姿勢を保つ。

きわどいコースのボールは、いつもより構えを長く取ると、選手からの信頼得て・私はよく見ているとアピールになる。

塁審の構え



ファールラインから一足分れて両足を肩幅に開き構える。

三塁審は、走者がいる場合のみファールラインから1.5mから2m離れ、捕手からの牽制球に備える。

両手は、スラックスの縫い目に添えて置くとよい。

走者がいる場合は、両手を握り大腿部の付け根に添え、投球・その他のプレーに備える。

判定する場合は、よく見える位置に動き、腰を落とし真正面から見て判定する。

一塁塁審の動きを後述する。

セーフのジェスチャ

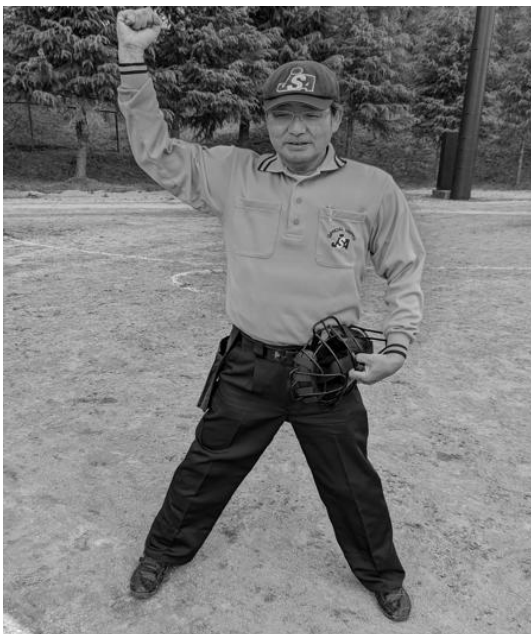
球審



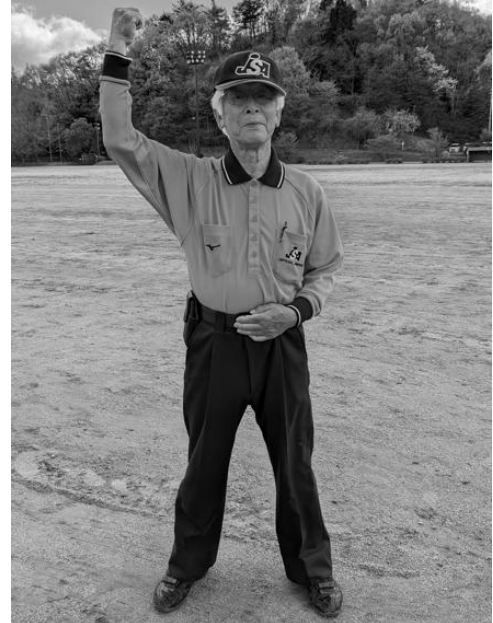
塁審



アウトのゼエスチャ
球審



塁審



一塁のアウトのタイミング

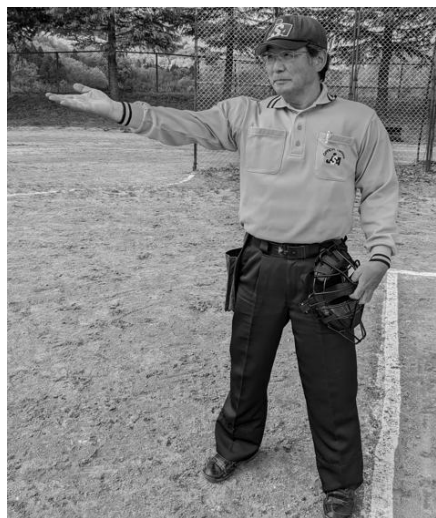


走者が一塁ベースに踏み
反対側の足が一歩前方に
付いた時点で「アウト」
コール。
その後アウトのゼエス
チャをする。

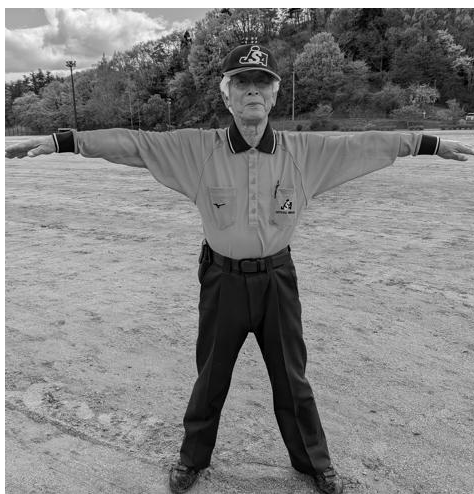
アウトのオーバーアクション

チェックスイング

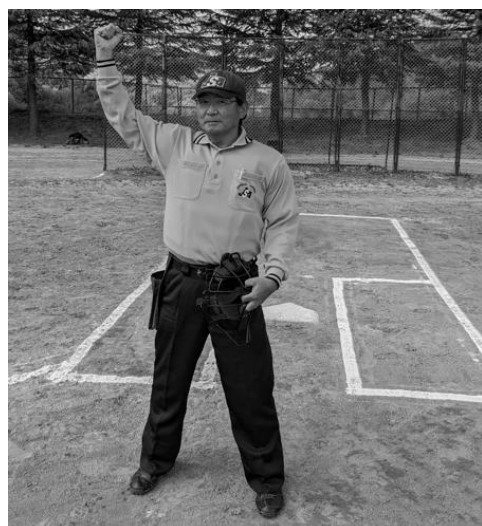
球審



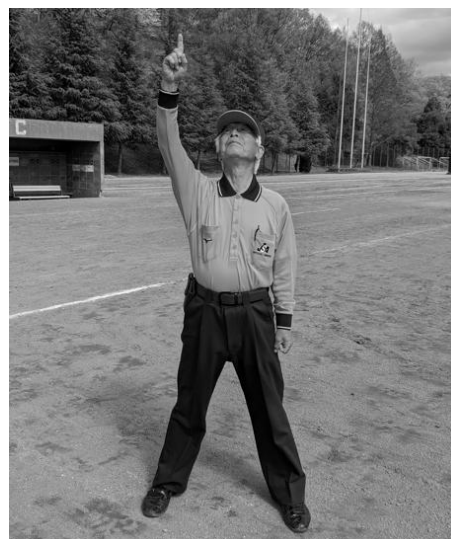
塁審



インフィールドフライのコールとジェスチャー
コール



同調者



打球判定

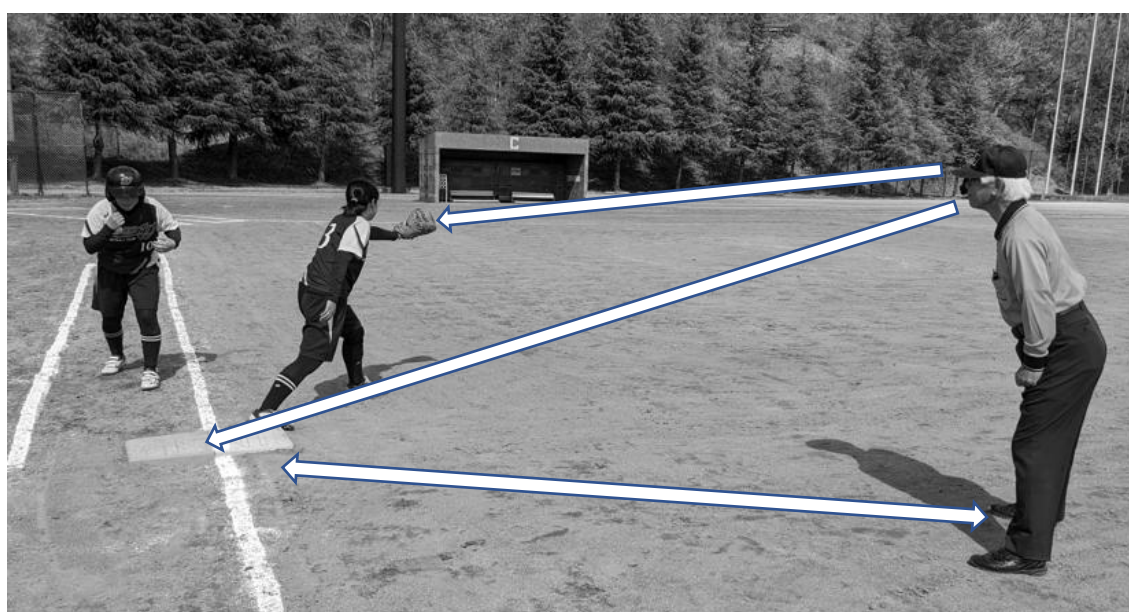
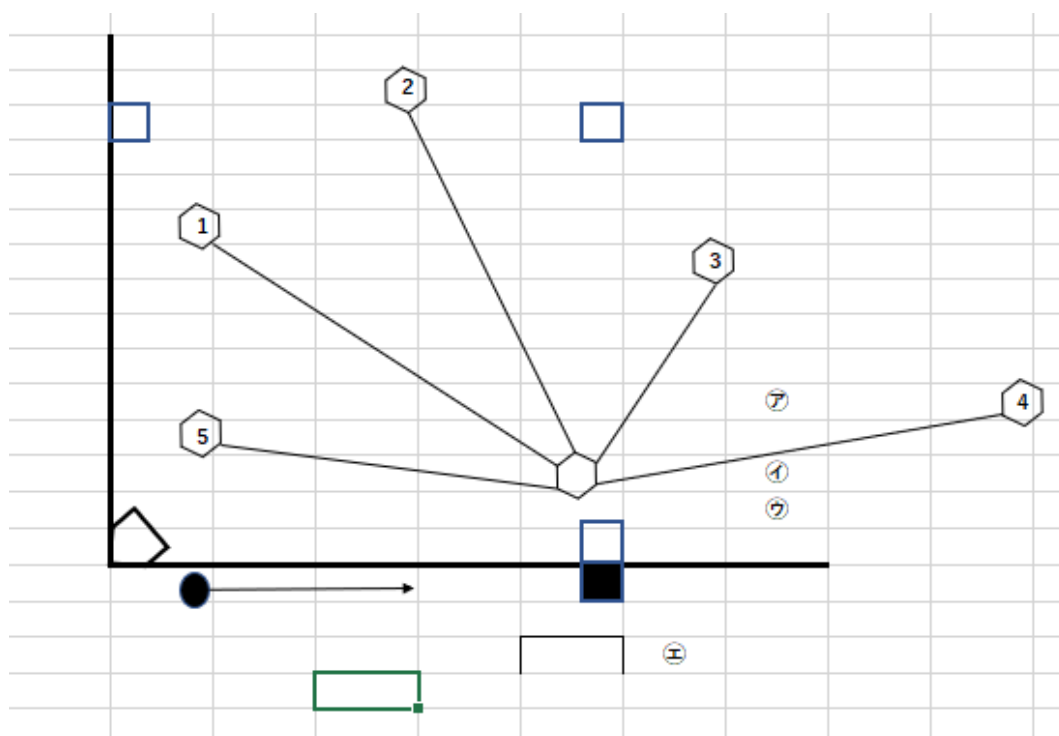
球審



塁審



「塁審の判定位置」



試合開始前の流れ

40分前	_____	打ち合せ 審判主任、担当審判員、担当記録員、担当放送員
30分前	_____	打順表の提出 攻守順の決定（両チームの主将・球審・二塁塁審） 打順表の確認（記録員・副審）・スターティングメンバーの決定 チームおよび相手チームの打順表を渡す（球審）
20分前	_____	後攻チームのフィールディング
15分前	_____	先攻チームのフィールディング
10分前	_____	競技場の整備（内野のみ） 競技用具の点検 一塁側（一・二塁審） 三塁側（球審・三塁審）
5分前	_____	打順表の最終確認（担当審判員・両チームの監督・本塁集合）
3分前	_____	選手整列準備
0分前	_____	プレイボールの宣告

審判員が試合開始前に行うべきこと

試合開始予定時刻の1時間前に審判員席に集合し、試合に備える。

競技場の施設・設備や境界を確認点検し、必要な特別グラウンドルールを両チームの監督・主将にはっきり知らせておく。

競技場諸線（特に投捕間と塁間の距離、および外野フェンスまでの距離）の確認をする。

当該試合の審判員（副審を含む）でよく打ち合わせを行い連係動作やサインの徹底を期すること。



打順表の提出



用具点検



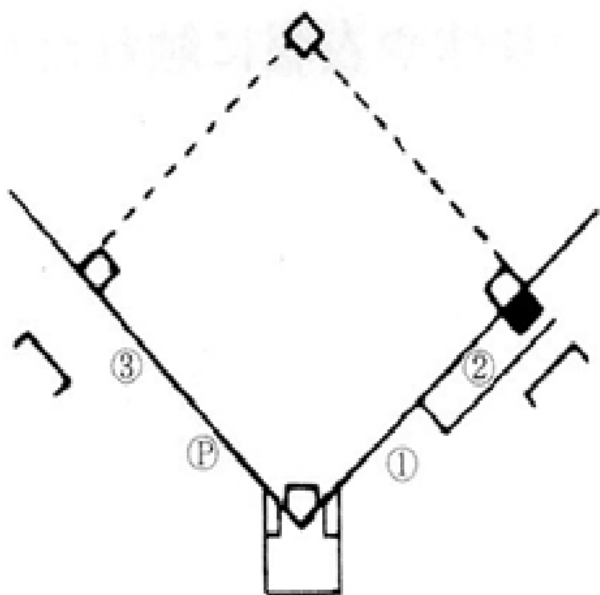
打順表の最終確認



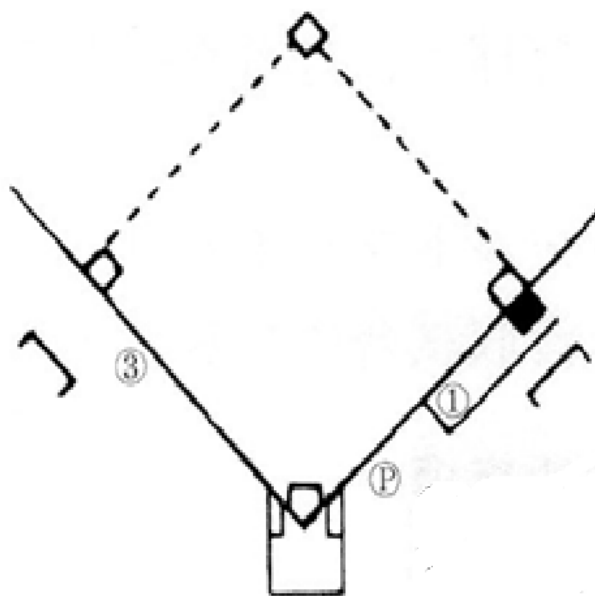
試合開始前の整列



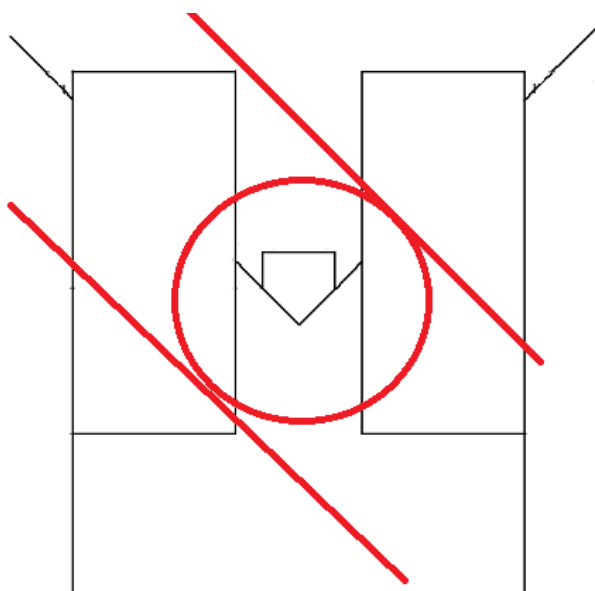
(4人制)



(3人制)



捕手の走塁妨害



捕手は送球を捕球する前は、赤の円内(91 cm)、直線の中に立つことは、走塁妨害の対処となる。
また、走者の進塁方向により、本塁の前縁は下記図の通りとなる。

